

農業の新しい技術

No. 596 (平成20年 7月)
分類コード 02 - 07
熊本県農林水産部

いぐさ新品種「夕凧」の収穫物への着花茎 混入削減のための先刈技術

農業研究センター い業研究所 育種・栽培研究室
担当者：高森幸光

研究のねらい

いぐさ新品種「夕凧」は、「ひのみどり」の前に収穫する早刈用の品種として県の奨励品種に採用された。茎が硬く、部分変色茎(テレ・ヤケ)も少ないなど長所が多いが、着花が多く着花茎の収穫物への混入が多いなど欠点もある。そのため、収穫物(105cm以上)への着花茎混入を少なくする先刈技術を早刈栽培(6月下旬収穫)で確立する。

研究の成果

1. 「夕凧」の早刈栽培における着花茎の105cm以上収穫物への混入を削減するための先刈技術は、収量と着花茎混入率から、収穫前60日前に高さ35cmが適当である。
2. 収穫時期が早くなるほど収穫物の着花茎混入は増加するので、6月中旬の収穫は避ける(図1)。
3. 先刈によって着花が除去できる長さ(40cm先刈の場合茎長60cm)に着花茎が達する時期は、「夕凧」では「岡山3号」より早い4月の下旬であり、それ以前の先刈では40cmの先刈高さでは花を除去できない(図2)。
4. 着花を先刈時に除去できなくても、着花茎の先端を長く切ることによって収穫時の着花茎長はその分短くなり、製織前の長さ選別において着花茎の除去が可能となる(図3)。
5. 収穫60日前の先刈高さの処理を比べると、40cm先刈に比べて35cm先刈では着花茎の混入は著しく減少し、収量は先刈高さが低くなるほど漸減する。慣行の「岡山3号」の先刈高さ40cmと比較して、先刈高さ35cmの条件で着花茎混入率は同じ程度、収量はやや少ない程度であった(図4)。

普及上の留意点

1. この先刈技術は、い業研究所(八代市鏡町、八代平野)において、11月後半植付け6月後半収穫の作期での栽培試験結果である。
2. この先刈技術は、6月下旬に収穫する「夕凧」に適用できる。
3. この先刈技術は、着花茎を先刈によってできるだけ長く切り、収穫時の着花茎長を短くすることが重要である。

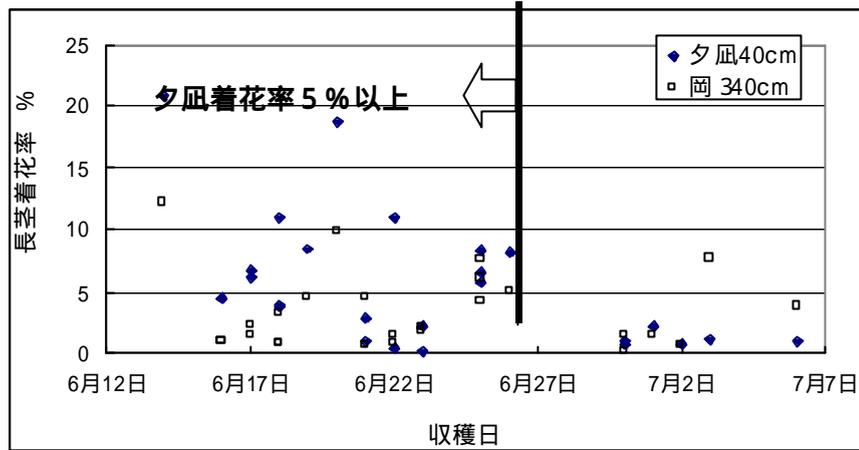


図1 収穫日と105cm以上茎の着花率 (平成11～19年産)

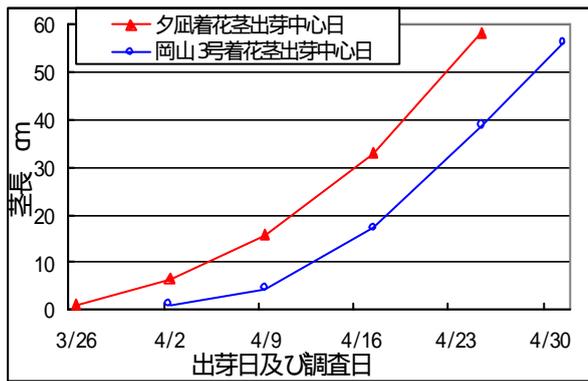


図2 着花茎の出芽日と生育(平成19年産)

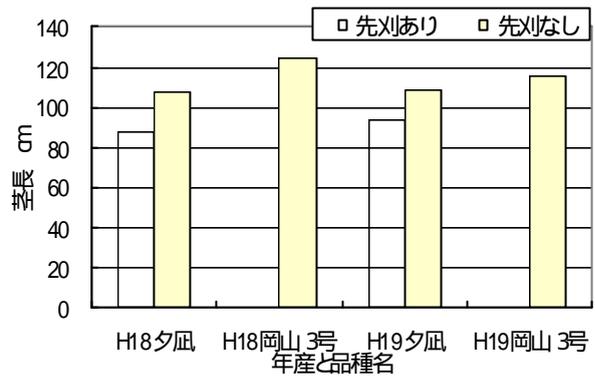


図3 着花茎の収穫時茎長(極早刈栽培)

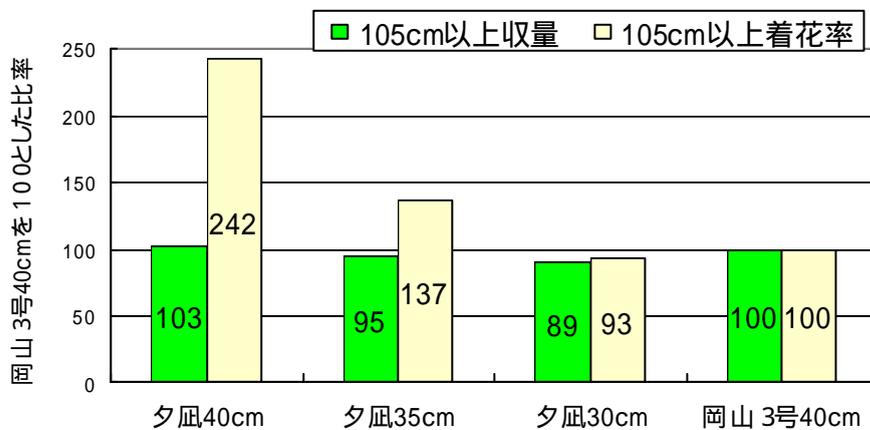


図4 先刈高さ105cm以上花序着生率および105cm以上収量 (先刈日は収穫60日前、極早刈栽培、平成17～19年産平均)